

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	733 高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業	会計	01	一般会計
		款	08	土木費
		項	05	住宅費
基本 施策	30 伊賀市らしい住まいと居住環境を創造する	目	01	住宅管理費
		細目	389	高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業
行革大綱の重点事項番号		細々目	51	高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業
担当部課	コード	190900	担当者	43 - 2330
	名称	産業建設部建築住宅課	氏名	藤岸 登 連絡先 (内線) 301

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	バリアフリー化された高齢者向けの民間賃貸住宅を必要としている高齢・低所得世帯 ※対象件数 8件
成果(どうする)	高齢者が安全で安心した生活ができるようバリアフリー化された優良な住宅供給を促進することにより、高齢者の快適な居住環境、安全で安心した生活を実現する。
根拠法令・要綱等	高齢者の居住の安全確保に関する法律、伊賀市高齢者優良賃貸住宅供給事業補助金交付要綱
開始年度	平成 16 年度
終了年度	平成 26 年度
H22 事業 内容	伊賀市内において、高齢者が安全で安心して居住できる良質な賃貸住宅の供給を促進するため、高齢者の居住の安全確保に関する法律第31条の規定に基づき、三重県知事から供給計画の認定を受けた事業者に対し、契約家賃と入居者の収入によって決める入居者負担額の差額について、予算の範囲内において補助金を交付している。平成22年度においては、伊賀市上野恵美須町『エルビスハウス』の入居高齢者8名分の家賃補助を行い、高齢者が快適で安心して居住できる居住環境の実現に役立てた。
	社会情勢 の変化等

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
高齢者住宅入居者の補助件数	件	目標	8	8	8	8
		実績	8	8	8	8
		目標				
		実績				

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
優良住宅利用率 (家賃補助件数/優良住宅室数)	%	優良住宅室数を分母とし、家賃補助件数を分子とする優良住宅利用率を指標とする。	目標	100	100	100	100
			実績	100	100	100	100
			目標				
			実績				

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの 財源 内訳	国庫支出金	1,654	1,743	1,395	1,395
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	1,656	1,556	2,204	2,204
事業投入人件費(B)		0.5人 3,600	0.5人 3,600	0.5人 3,600	0.5人 3,600
フルコスト(A)+(B)		6,910	6,899	7,199	7,199

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	○
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	○
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは地域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
有効性	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	概ね計画通りに実施できている。
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
効果性	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
改善策	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	伊賀市における住宅施策としては、民間賃貸住宅と市営住宅との役割を明確に示すことで、高齢者を含む住宅困窮者の居住の安定確保を講じていかなければならない。本年度中に策定予定となっている住生活基本計画及び長寿命化計画に基づいて、伊賀市の住宅施策の展開を図る。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 伊賀市上野恵美須町内に建設された『エルビスハウス』の入居高齢者8名の差額家賃補助を行い、安全で安心して居住できる良質な賃貸住宅の供給を行った。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	松本 次夫
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】 既存の老朽化の目立つ市営住宅を高齢者や障がい者など、誰もが安心して安全に居住できる住宅に改修するには、莫大な経費と長期間に渡る改修工事を必要とする。そのため、民間で建設されたアパート等を活用して、本事業と同様に家賃補助を行うことで、住環境の充実が可能となる。(建替よりトータルコストが安価となる場合もある)
現時点における課題、その他	伊賀市が発足して7年が経過しようとしているが、市営住宅等の将来計画が策定されていない状況である。本年度中に住宅施策全般に渡る基本計画及び既存市営住宅等の建替や統廃合等、活用方法の指針となる長寿命化計画を策定する中で十分に検討しなければならない。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	本年度においては、住生活基本計画及び長寿命化計画を策定し、伊賀市の今後10年間に渡る住宅施策の基本方針や既存市営住宅等の活用方針(統廃合を含めた整理)を検討する。